

平成29年度 第1回 市川市博物館協議会 会議録

日 時：平成29年7月21日（金）午後2時から

場 所：市立市川歴史博物館 2階 講堂

出席者：石山秀和、遠藤行巳、加賀陽子、越川重治、小嶋亨治、酒井清治、
白井久美子、高橋道夫、福岡直子、松本浩和、三橋敏雄、村松勝美、
山崎京美（五十音順）

須藤治考古博物館館長、石井隆三自然博物館館長

考古博物館：大道直和主幹、笠川賢司主任、山路直充学芸員、

歴史博物館：赤坂幸彦副主幹、槇峰和也主任、小野英夫学芸員

教育委員会：松下大海教育次長

佐野滋人生涯学習部部長、伊藤幸仁生涯学習部次長

傍聴者：なし

事務局： 本日は、お集まりいただきありがとうございます。これより博物館協議会
委員に選任されました方々へ、委員の委嘱辞令を交付いたします。

市川市教育委員会を代表いたしまして、教育次長松下大海より、辞令をお
渡しいたします。よろしくお願ひします。

松下次長より、各委員へ辞令交付

松下次長： 本日はお忙しい中、また暑い中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。
博物館運営協議会委員のみなさまに置かれましては、それぞれの専門分野の立場で、博物館運営にお力添えをいただいておりますこと、あらためまして感謝を申し上げます。

さて、本市の博物館では、平成23年度に博物館中期計画を定め、博物館が、市川市の歴史や文化、自然、環境などに関する学習の場として、また調査・研究の場としての役割を担うとともに、学校教育と連携した子どもたちの体験学習の場として、多くのボランティアのみなさまにご理解、ご協力をいただきながら、数多くの事業に取り組んでまいりました。

その後、中期計画をさらに発展させて、昨年6月に策定いたしました「博物館運営基本方針及び事業計画の基本方針」に基づき、現在は毎年度の事業を計画・運営し、PDCAサイクルによる評価をしています。

その基本方針の中で、3つの使命および6つの施策の方向を示し、特に地域の自然、考古、歴史、民俗、文化的資産の保護と活用、博物館を通じたコミュニティの活性化ということでは、博物館の展示事業や、教育普及事業などを通して、市民のさまざまな学習ニーズに応えられるようなサービスの充実を図っていくこと。そして、自らが学ぶということだけに留まらず、学ん

だ成果を地域に還元していけるような仕組みづくりを進めながら、市民の皆さまが、生涯を通じて学び続けることのできる学習環境の充実を目指しているところでもあります。

教育委員会といたしましては、今まで以上に、博物館が、市民の皆さまにとって親しみやすい、使いやすい施設となることを目指していきたいと考えております。

結びになりますが、博物館運営協議会の委員の皆さまに置かれましては、博物館運営に際しまして、それぞれの専門的なお立場で、忌憚のないご意見、ご助言を賜りたく、お願い申しあげまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞ、よろしく申し上げます。

各委員及び事務局挨拶

松下教育次長、佐野生涯学習部部長、伊藤生涯学習部次長 退席

委員長及び副委員長の選出

須藤館長 : 委員の任期が改選されましたので、市川市立博物館設置及び管理に関する条例第11条の規定により委員の皆さまの中から、新たに委員長及び副委員長を推薦いただく必要があります。つきましては、委員の皆さまによって委員長と副委員長を選出していただければと思います。

委員長を選出するにあたりまして、決定するまでの間、どなたか議長をしていただける方はいらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらないようですので、事務局の方からご指名をさせていただければと思います。今回、お集まりの中で、最年長でいらっしゃいます村松委員にお願いできればと思います。いかがでしょうか。

各委員 : 了承

須藤館長 : では、村松委員、よろしく申し上げます。

村松委員 : これから今期の委員長を決めていきたいと思っています。どなたか立候補していただける方はいらっしゃいますか。

では、ご推薦していただける方はいらっしゃいますか。

いらっしゃらないようですので、私の方から推薦させていただきたいと思っています。

各委員 : 異議なし

村松委員 : 酒井委員に今期の委員長をお願いできればと思います。

酒井委員長 : 不慣れな部分も多いですが、これからよろしく申し上げます。

では、さっそくですが、副委員長の選出をしたいと思っています。各委員の皆さまからご意見等ありましたらお願いします。

白井委員： 村松委員を推薦いたします。

酒井委員長： 皆さまいかがでしょうか。異議がないようですので村松委員にお願いしたいと思います。

村松副委員： 任期いっぱい頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

事務局： それでは、市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第1項の規定により、協議会の議長は委員長が行うこととされております。これより先、酒井委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

酒井委員長： では、これより平成29年度第1回市川市博物館協議会を開会いたします。

なお、開会にあたりまして、本日は13名の委員の方々には出席いただいておりますので、市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第2項の会議規定、委員定数の過半数以上の出席という条件を満たしておりますので、この協議会は成立していることを確認します

本日は、報告事項1件、協議事項1件となっております。また最後に、次回の協議会日程について確認いたします。

では、事務局より報告事項からお願いします。

事務局： では、平成28年度実施事業に関する3館の事業種別の総合評価に関する自己評価について報告させていただきます。

さきほども教育次長の挨拶にありましたが、基本運営方針に基づいて事業等を進めております。お手元にある資料を確認しながらお聞きください。

まず、「収集・保管及び調査研究」における主な成果・課題についてお話しします。成果としては、市史編さん事業との連携により、見込み程度の成果があげられた部分などがあげられますが、収蔵資料のデータベース化等については、進めることができなかったことがあげられます。これらを踏まえ、自己評価はBとしています。

続きまして「展示」についてですが、ホール小展示や速報展、企画展の実施等により、好評であったと捉えています。しかし、常設展示については、2月に整備期間を設け、清掃やキャプションの付け替え等行いましたが、さらに展示替え等を進めていく必要があると考えています。それらを踏まえ自己評価をBとしています。

次に、「市民向けの教育普及」について、成果としては、博物館講座、講演会、季節の行事、自然観察会などを通して、ほぼ見込み通りの成果を得られたように思います。年3回行ったフェスティバルでも好評を得られました。一方で、講演会の内容をもっと参加者の見込める内容に見直す必要があるのではないか、フェスティバルの雨天時の対応等の課題も挙げられます。これ

らを踏まえ、B 評価としています。

「学校関連の教育普及」については、各館とも、小学生向け体験学習につきましては、来館や出前授業により、多くの学校にご利用いただき、好評でした。しかし、学校からの申し入れが重複してしまうこともあり、来館を断念される学校も見られました。そういったことに対する今後の対応を検討していく必要があります。このため、B 評価としています。

「地域連携の教育普及」に関しては、公民館講座や博物館友の会主催の見学会等を通して実施しています。これらについても、好評を得ています。課題としては、公民館等講座を実施する際の内容について考えていく必要が考えられます。評価は B としています。

「運営」については、考古・歴史博物館だよりや、自然博物館だよりの発行により、事業内容をアピールしてきましたが、建物等の老朽化が進んでおり、施設維持に必要な経費を要求するためにも、さらに、博物館の事業や社会貢献について市民や市職員へ積極的にアピールしていく必要があると考えています。評価は B としています。

酒井委員長： ご質問・ご意見があればお願いします。

山崎委員： 考古博物館教育普及事業②学校連携「高校生ボランティア活動支援」について C 評価となっていますが、評価根拠を見ると、組紐・勾玉づくりに多くの高校生が参加したとなっています。これはどうしてなのでしょう。

事務局： 次年度への課題にもありますが、のべ人数としては、多くの生徒に参加いただけましたが、実施回数を考えますと十分でなかったとの考えでこのような評価としています。

酒井委員長： 昨年度と比較すると、実施人数が増えているが自己評価としては、A から C へ評価を落としています。なぜでしょうか。

事務局： 昨年度を踏まえ、相対的に評価を厳しくしています。特にこの「高校生ボランティア活動支援」事業については、せっかく来ていただいているところもありますので、人数を増やせるよう改善していきたいと考えています。

山崎委員： 他の事業と比較しても、評価が厳しいようにも見えます。人数を見ても、もう少し評価を上げて良いのではないかと思います。

白井委員： 学校関連の教育の課題として、申し込みが重複してしまったとありますが、どのような調整方法を考えていますか。

事務局： 現在、申し込みの方法としては、電話での受け付けのみとなっています。調整しようとは考えていますが、現状としては、学習時期や学校行事も重なることが多く、なかなか難しいところにあります。

白井委員： 電話だけでなく、インターネット等での受け付けは考えているのでしょうか。

- 事務局 : 現状では難しいと考えています。今後の課題として検討していきたいと思っています。
- 越川委員 : 自然博物館の収集・保管及び調査研究の評価がCとなっています。これについては、昨年度も課題として挙がっていたように思います。とくにデジタル化等は予算をつけて、どんどん進めていく必要があるように思います。自然博物館としては、現在の様子をきちんと資料として集めておく必要があると思います。なので、こういったデジタル化等の作業は、ボランティアを頼んだり、予算化したりして進めていくことが大切なのではないでしょうか。
- 事務局 : ご指摘のあった、スライドフィルム等のデジタル化については、進めてはいるのですが、全体量が多く進捗状況が追い付かないでいます。実際に、予算化し取り組めればよいのですが、それもなかなか難しいというのが現状です。しかし、今年度については、デジタル化を含めた資料の収集・整理について、週に1度、2人のボランティアの方に来ていただき、目録作り等の作業を行っていますので、進捗状況としては改善する見込みです。また、今年度より非常勤職員が1名配置されましたので、作業の効率も上がるのではないかと期待しています。
- 酒井委員長 : スライドフィルムのデジタル化以外に、昨年度の協議会でも取り上げたデータベース化については、今年度どのような状況にあるのでしょうか。
- 須藤館長 : ボランティアで来ていただいている方の中に、ICTに詳しい方がおり、その方を中心にデータベース化等についても、少しずつですが、進めている状況にあります。
- 村松委員 : 考古・歴史博物館で取り組んでいる体験学習や出前授業については、今の体制ではこれ以上の対応は難しいように思えるのですが、どう考えていますか。
- 須藤館長 : 実際に学芸員の多忙化という問題もありますが、これらの学校体験に関しては、学校側からの要望がないとできません。しかし、学校も多忙になっており、少しずつ実施校が減ってきているのが現状です。そういった中でも、出張展示というような形をとって、博物館資料を活用いただけるようにしていきたいと考えています。
- 酒井委員長 : では今後、評価ということを考えると、A評価を目指すというのは厳しい状況にあるということでしょうか。
- 須藤館長 : ご指摘の通り、今の事業の在り方では難しいと思います。しかし、博物館としては、出前授業を行うことが目的ではなく、学校と博物館がどのように連携していくかということが大切であると考えています。そうした理由で、別の方法で学校と博物館がどう連携していくことができるかななどを模索していく必要があると考えています。

福岡委員 : 体験学習を行うことは、博物館にとっても良い機会ではあると思うのですが、学芸員にとっては、準備や片付け等の負担が大きいものでもあります。

お話していただいた中に、新しい形での学校支援ということでしたが、小学校内の空き教室に、博物館資料を活用して展示室を作るような形で取り組まれてみるというのはどうでしょうか。

実際、学校を調査してみると、校内に活用できる資料が使われない形で残っている地域もありました。こういった資料をきちんと活用できるよう、学芸員がサポートしてあげることも大切だと感じています。

須藤館長 : 現在、主に歴史博物館学芸員が市内学校にある郷土資料室の調査等も行っていきます。整理した情報を、校内の先生方が活用しやすいよう目録等をつくり、配布させていただくなどしています。

高橋委員 : 30年近く前、地域の方に資料をいただき、教師が中心となって、各校に郷土資料室を作った時代がありました。しかし、今の若い先生方は、それらの資料について知らない世代にあります。そこで、地域の方々と連携して、それらの資料やその時代についてお話いただく必要があるなと思いました。

また、さらに土器などの資料については、博物館だけではスペースの問題もあり、保管が難しいと聞いています。そのため、市内の学校では、場所をお貸しして、子どもたちの目に触れる形で保管していただくことで、連携をとっているケースもあります。

須藤館長 : 確かに、かつてそういった各校に郷土資料を設けるという活動が盛んであったようです。しかし、現在、若い先生も増えてきており、学校にある資料を活用できていない状況にあると聞いています。

3年生は歴史博物館で昔のくらし体験、4年生は自然博物館で自然体験学習、6年生は考古博物館で縄文体験学習を行っており、各学校が何らかの形で博物館を利用いただく状況が定着してきています。その際、打ち合わせの機会に、学芸員がお話させていただくことで、各学校の先生方への教員指導も兼ねていると考えています。また、こういったことの積み重ねにより、学芸員と学校の先生方につながりが生まれ、次の利用につながっていけばなと考えています。

松本委員 : 2点あるのですが、項目の中に申し込みを受けて実施するものがあるのですが、こういったものは数値的な目標は設定せずに、申し込み次第での実施ということでしょうか。

また、学校利用について、日程が重複することが多いとのことでしたが、これはある程度、博物館側から日程を指定して実施しているのでしょうか。

須藤館長 : まず、依頼を受けてという部分に関しては、市内の小・中学校に対して必ず利用してほしいという投げかけは行っていません。そのため、学校側から

の要望にできるだけ応えられるようにして対応しています。体験学習については、学習時期に合わせた実施となっていますので、希望時期が重複してしまうことが多くなっています。そこで、まずは学校側から申し込みいただいて、こちらで調整するという形をとっています。

来館の体験学習、学校への出前体験学習という方法では、学芸員の負担が大きいのも事実です。ですが、こういった体験学習の経験を見童・生徒に、ご家庭に持ち帰っていただくことで、二次利用につながればなと考え対応しています。

松本委員 : 学校数が増えると、学芸員の負担が増え、本来業務に支障が出るようでしたら、ある程度実施数を限定してみる必要もあるのではないかと思います。

そうすることで、評価という形にもわかりやすくなるのではないかと、またB評価が多くなっている状況にありますので、事業によっては、チャレンジするようなものもあってよいのではないかと思います。

酒井委員長 : では、続きまして協議事項に移りたいと思います。

事務局 : これまでの内容を踏まえまして、協議委員の皆さまから外部評価について、ご意見をいただければと思います。

白井委員 : 事業実施評価の中に、評価根拠、次年度への課題とありますが、さらに昨年度からの改善点等を挙げるなどもう少し具体化していただけると、こちらも評価しやすくなるように思います。

須藤館長 : 昨年度の自己評価を見ると、目標値が定められておらず、各館によって評価がずれてしまっているところがありました。そこで、数値目標が定められるものについては定めるなどして評価しましたが、ご指摘いただいたように、どこが昨年度から改善されたのか、捉えにくい報告になってしまったように思います。評価方法についても、また見直していきたいと思っています。

山崎委員 : 各館とも、収集・保管及び調査研究事業のところにはC評価がついています。自然博物館のように、非常勤職員やボランティアの協力を得て、資料の保管やデータベース化を行なえばよいのでしょうか、こういったことにも予算がつかないと、なかなか難しいことなのかと思います。予算が絡んでくるものについては、評価もまた難しいように思いました。非常に苦慮されている中で、総合的にはB評価を出されていますが、やはりここは予算等が改善されることを望んでいけるような形にしてみたいでしょうか。

須藤館長 : 市川市は財政状況としては、あまりよくありません。外部に委託するなどして進めていければよいのですが、新しく何かを始めるということについては、なかなか難しい状況にあります。

現在のところは、他の部署でやっている市史編纂事業の中で、調査・研究を予算化していただき進めてはいるものの、バックヤードで持っている資料

の調査・整理については、停滞気味にあります。こういった資料については、地域に理解のある信頼できる業者や事業者任せられればよいのですが、それも難しい状況です。

確かに、予算の確保が評価に大きく影響するとは思いますが、予算が潤沢にない状況の中で、どれだけ各博物館が努めて実現しているのかというところを評価基準として、ご検討いただければと思います。

白井委員：これは、今日、結論を出さなければならないのでしょうか。

酒井委員長：その予定でいます。本日の意見を取りまとめたものを、外部評価として取りまとめるつもりでいますが、事務局としてはよろしいでしょうか。

事務局：できましたら、一つ一つの評価である必要はありませんが、ご意見・評価をいただければと思っています。

須藤館長：ここまでで、概ね皆さまからのご意見をいただいておりますので、後ほど議事録を確認しまして、こちらで整理させていただきたいと思います。ですので、自己評価を見ていただき、外部評価として、訂正した方がよいと判断された部分については、今、ご意見をいただければなと思います。

福岡委員：館別意見(概略)のところ、いくつか「好評であった」という言葉が使われています。そういったところについては、A評価としてもよいのではないのでしょうか。また、評価基準に、A評価について、「参加者数、内容、参加満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた(目標の90%以上)」とありますが、B評価としているところの多くは、A評価としても良いのではないかという印象を受けました。

白井委員：自然博物館の「収蔵・資料及調査研究」事業については、ボランティアの活用も含めまして、徐々にですが進歩しているように思いましたので、C評価ではなく、B評価としても良いのではないのでしょうか。

酒井委員長：協議委員としてはこのような意見となりましたので、事務局の方で取りまとめていただければと思います。

事務局：それでは、事務局から連絡事項といたしまして、次回の協議会についてお知らせします。今回は、10月頃に、お手元にお配りしております、市川市公共施設等総合管理計画につきましてご意見を承りたいと考えております。よろしくをお願いします。

須藤館長より、公共施設等総合管理事業計画(概要)についての説明

小野学芸員による企画展「浮世絵の世界と市川」展示解説

以上